

武蔵町で盛大に ホタルまつり

6月2日(土)午後5時から、武蔵町麻田の報恩寺公園で「第10回武蔵町ホタルまつり」(主催：武蔵町ホタルを育てる会・末綱元一会長)が開催され、市内外から大勢の参加者を集めて賑わいました。

午後6時から開会行事があり、末綱会長が「ここ武蔵川には、関係者の方々の長年の努力と住民の皆さんのご協力により、たくさんのホタルが帰ってきました。水がきれいになり、川がきれいになるということは、町全体がきれいになるということであり、住民が安心して暮らせる環境になるということであると思います。私たちは今後ともホタルの保護活動を通して、地域の環境をさらによくしていきたいと思います。」とあいさつ。続いて来賓を代表して野田侃生市長、安見蔚市議会副議長が祝辞を述べました。この後特設の舞台ではアトラクションがあり、地元の子どもたちによる合唱や、地元の皆さん



▲武蔵保育所の園児や武蔵西小学校の児童による遊戯や合唱が、会場を沸かせました

によるカラオケが披露されました。また、会場では、地元商工会や地域のグループ等によるカレーライスやかき氷等のバザーも行われ、会場はひと足早い、夏祭りの雰囲気に包まれました。

午後8時からは、会場から約1km上流の上麻田地区の川辺に会場を移して乱舞するホタルに参加者の皆さんからは、歓声があがっていました。

みんなでつくった武蔵川 武蔵川床上浸水対策特別緊急事業が完成

武蔵川で平成13年から進めてきた「武蔵川床上浸水対策特別緊急事業」が完成し、6月5日(火)午後2時から国、県、市の関係者、川づくり委員会の会員や施工業者ら約90名が参加してしゅん工式が行われました。

武蔵川流域では、平成9年、10年に台風により洪水で家屋の浸水、田畑の冠水による被害が発生したため、特に被害の大きかった独歩川合流地点付近までの約1.6km区間について、平成14年度から「武蔵川床上浸水対策特別緊急事業」による河川改修に着手。関連道路の整備費を含む総事業費45億円をかけて平成19年度に完成しました。



今回の河川改修は、地元区長をはじめ、関係者による「川づくり委員会」からの意見をもとに、地域の人々の生活の場や子どもたちの遊び場であった武蔵川を復活をさせることを主な方針としたもの。武蔵東小学校児童やボランティアによるハマボウの植樹や桜の植樹など、自然環境の保全や、これまでの武蔵川を復元させることに配慮した川づくりを行いました。

式では、野田侃生市長のあいさつ、国土交通省九州地方整備局河川部の大塚強史地域河川課長、三浦秀一大分県土木建築部審議監らが祝辞を述べ、記念碑の除幕や記念植樹が行われ、事業の完成を祝いました。